

【今週の注目疾患】

《結核》

9月24日から9月30日は、『結核・呼吸器感染症予防週間』です。

厚生労働省ならびに千葉県では、令和6年度から、結核予防週間から名称を改め、結核に加えて呼吸器感染症を併せて普及啓発を図る期間としました。

○結核

今でも国内において、年間10,000人以上の新しい患者が発生し、1,500人以上が命を落としている国内の主要な感染症です。

2週間以上咳が続く場合は、結核を疑い、重症化と感染拡大の防止のために、必ず医療機関を受診しましょう。

○呼吸器感染症

インフルエンザや新型コロナウイルス感染症をはじめとした呼吸器感染症の感染防止のため、マスク着用を含む咳エチケット、手洗い、換気等の基本的な感染対策を行いましょう^{1),2)}。

2024年の結核の届出数は、第37週の11例により累計628例となった。県内医療機関からの届出数は、近年減少傾向にあったが、2024年の届出数は2020年、2021年並みに多くなっており、注意が必要である。なお、628例の概要は以下のとおり。

性別では男性366例(58.3%)、女性262例(41.7%)と男性が多かった(図1)。年代別では80歳以上が163例(26.0%)、70代が109例(17.4%)、50代が98例(15.6%)、20代が74例(11.8%)の順で多く、60代以上で半数以上を占めている(図2)。病型別では肺結核257例(40.9%)、無症状病原体保有者259例(41.2%)、その他の結核85例(13.5%)、肺結核及びその他の結核7例(3.4%)であった。その他の結核で多かったのは結核性胸膜炎55例、結核性リンパ節炎27例、粟粒結核15例であった(複数症状のあるものはそれぞれに計上している)。

図1：2015年から2024年までの千葉県内結核届出数
(2024年第37週時点)

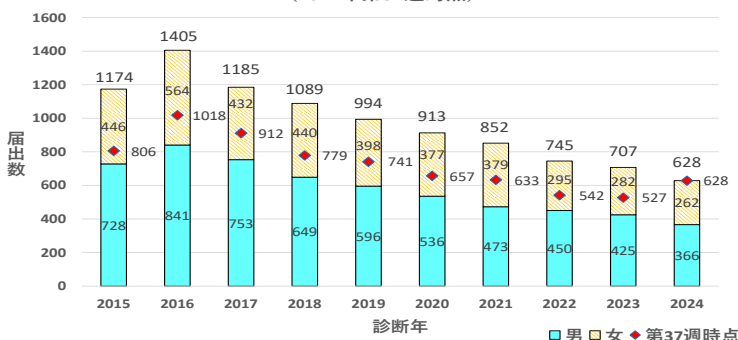
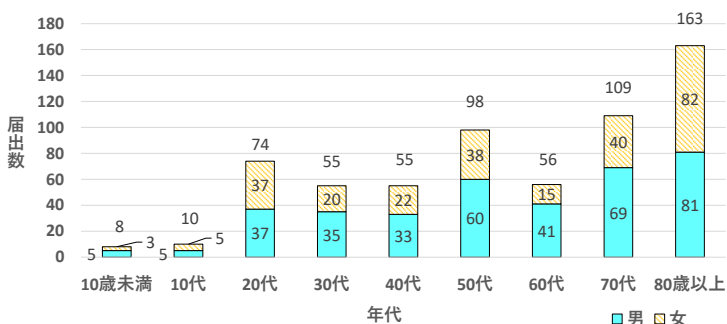


図2：2024年第1週から第37週までの性別年代別結核届出数



結核は、結核菌によって発生するわが国の主要な感染症の一つである。初期には風邪のような症状を呈することが多い。痰のからむ咳・微熱・身体のだるさが2週間以上続く場合には、速やかな受診が重要である。また、咳や痰、発熱などの症状が出ないこともあるので、体重減少・食欲がない・寝汗などがある場合にも注意が必要である³⁾。

肺結核が代表的であるが、それ以外にも頸部リンパ節、脊椎、腸、腎臓など全身の様々なところに病巣を形成する（肺外結核）。現在でも、結核性髄膜炎は3分の1が死亡し、治っても半数近くは脳に重い後遺症を残すことがある。なお、小児では症状が現れにくく、全身に及ぶ重篤な結核につながりやすいため、注意が必要である^{1),4)}。

治療は、感染しても発症していない無症状病原体保有者（潜在性結核感染症患者）については、3ヶ月から6ヶ月間薬を服用することで発病を予防する。患者についても、一定期間毎日複数の薬を服用して治療する。不適切な服薬の中断は結核菌の薬剤耐性を招き、治療に失敗することがある。確実な治療のため、入院中も退院後も医療従事者が服薬を見守る仕組みをDOTSといい、医療機関と保健所が協力して行う³⁾。

■引用・参考

1)厚生労働省：結核（BCG ワクチン）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou03/index.html

2)千葉県疾病対策課：結核・呼吸器感染症予防週間

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/kekkaku/tbweek.html>

3)公益財団法人結核予防会結核研究所：結核の常識 2024

https://jata.or.jp/dl/pdf/common_sense/2024.pdf

4)公益財団法人結核予防会結核研究所：結核の基礎知識

https://jata.or.jp/about_basic.php